

6 奈良市の目指す姿と指針

(1) 奈良市の目指す姿

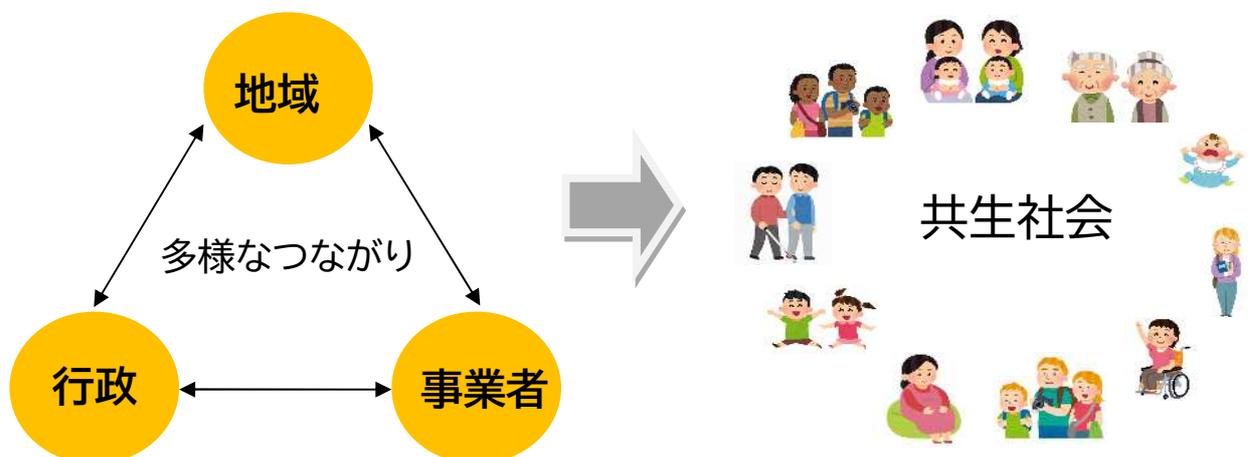
奈良市バリアフリー基本構想の基本理念のほか、ヒアリング調査の結果を踏まえて、奈良市の目指す姿を設定します。

奈良市の目指す姿

多様なつながりが生み出す共生のまち

- **さまざまな状況・立場の人々が共に生きるまち**
高齢者や障害者、妊産婦、子育て世代、住民や観光客みんなが出かけられるまちづくり
- **歴史と未来が共に生きるまち**
古都奈良の文化財とノーライゼーションが融和するまちづくり
- **だれもが主体、みんなで共に創っていくまち**
地域、事業者、行政がともに協働するユニバーサルデザインのまちづくり
- **相互に支え合う共生の心と個性尊重のまち**
思いやりのこころの学びと多様性が尊重されたまちづくり

持続可能な開発目標(SDGs)の理念を踏まえ、本市では「だれひとり取り残さないまち」の実現に向け、性別、国籍、年齢、身体のバリアを取り払い、LGBTをはじめ性的マイノリティなどにも配慮した個性の尊重と、だれもが自由に移動でき、地域のサロン活動、健康教室などに参加し、交流することができる「共生社会」のまちを目指します。また、多世代におけるさまざまなニーズに基づき、地域・事業者・行政が一体となって協働し、地域全体が多様につながりあうことで、だれもが安全に安心して暮らせるまちづくりの推進に向け、取り組んでいきます。



(2) 3つの指針

奈良市の目指す姿「多様なつながりが生み出す共生のまち」づくりを実現するために、取り組む3つの指針を設定します。

①ハードとソフトの一体的推進

「障害の社会モデル」の考え方を踏まえ、まちのユニバーサルデザインによる環境整備と相互理解によるこころのバリアフリーの取り組みを同時に展開することが必要であることから、地域、事業者、行政が一体となって、「ハード」と「ソフト」施策が両輪となり、まちづくりを推進します。

●災害に強いまちの形成

災害に強い都市構造を持つ、機能強化を目標として、小中学校等の教育施設とその周辺環境の整備や、指定された避難所施設の改修、避難路の整備促進をはじめとしたハード対策の充実に努めてまいります。また、災害時には自身が果たすべき役割を冷静に実行できるように、防災教育や防災研修等による、個人ひとりひとりの災害対応力のレベルアップ(ソフト対策)の充実に努めるとともに、災害時にこれらが効果的に機能する受援体制や「奈良市避難行動要支援者避難支援プラン」を策定し、全ての人の安全を確保する災害対策に取り組めます。

●「通いの場」づくり

ひとり暮らし世帯の増加等、人と人とのつながりの希薄化による社会的孤立をはじめとした諸問題について、地域サロンや認知症カフェ、健康教室、子ども食堂等、さまざまな住民主体の「通いの場」づくりを通じて、生きがいづくりや健康増進、子育て環境が充実していくよう、地域における「つながり」「見守り」「支え合い」の推進と支援体制の強化を図っていきます。



図 6.1 なら『通いの場』ガイドブック



図 6.2 健康教室

●アダプトプログラムの推進

アダプトプログラムとは、道路や河川等の地域の公共スペースを、市民のみなさんが愛情を持って行う美化活動を行政が支援する制度です。人々の支え合いと活気のある社会、それをつくることに向けたさまざまな当事者の自発的な協働の場を目指し、奈良市では本制度を推進することで、地域相互の連携を図っていきます。



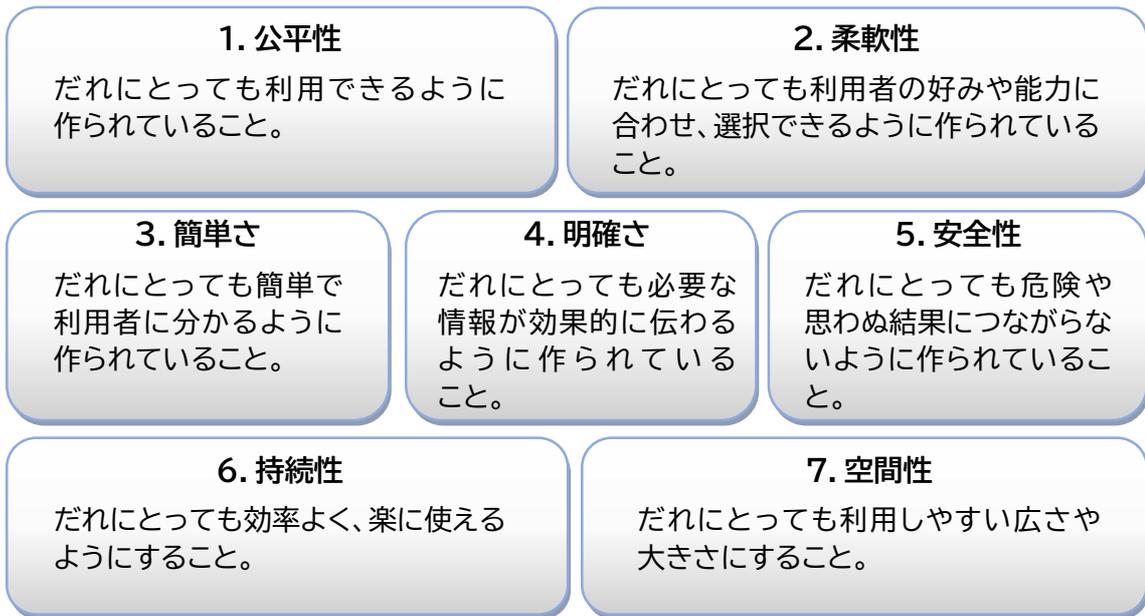
図 6.3 駅前広場での花いっぱい運動

②持続可能なまちづくり

だれにとっても利用しやすく、暮らしやすい社会となるよう、まちや建物、もの、しくみ、サービスを提供しようとするユニバーサルデザインの考え方にに基づき、生活環境を整えていくことで、社会全体の活力をさらに高めます。

●ユニバーサルデザインの7つの原則によるまちづくり

ユニバーサルデザインにおける7つの原則に基づいて、「持続可能なまちづくり」を推進します。



●ユニバーサルツーリズムの推進

観光資源、生活文化としての寺院・神社、奈良公園、平城宮跡、博物館等においては、景観や歴史的価値を残したまま、インバウンドをはじめとしたすべての人が気軽に来訪し、奈良の魅力に触れて楽しむことができる「ユニバーサルツーリズム」の推進を図ります。

また、観光客の誘致に向け、多様な利用者ニーズに合わせたトイレの設置への取り組みとともに、将来世代にわたってユニバーサルデザインの考えを継承し続けることのできるまちづくりを推進します。



図 6.4 ノンステップバス



図 6.5 おもいやり駐車場

③こころのバリアフリーを実現するひとづくり

個人がその心身の特性や考え方にとらわれることなく、人格と個性が尊重される、多様性のある共生社会を目指し、年齢や障害の有無などに関わらず、だれもが我が事として支えていく意識の醸成や教育を推進します。

★こころのバリアフリーのポイント★

- ・心の中にある差別や偏見、理解不足といった心の障壁(バリア)を取り除き、適切な意識と正しい知識を持つことで、自分が何をすべきかがわかります。
- ・ひとりひとりが他者を理解し、まごころをもって配慮や行動をすることが重要です。

●配慮の必要性を示すマークの普及啓発

その人の状況を伝えるさまざまなマークの意味を周囲が正しく理解し、必要な援助を受けたり、行ったりできるよう普及啓発に取り組みます。



図 6.6 マタニティマーク 図 6.7 ヘルプマークの啓発



図 6.8 窓口での対応表示例

●こころのバリアフリー教育

奈良市内の小中学校等さまざまな教育機関で実施する学習を通して、高齢者や障害者、外国人等に関する問題について、自身の課題として考える機会を持ち、当事者の立場に立つことの大切さを理解し、人権と共生のまちづくりに向けて行動する意欲や行動力を養うとともに、違いを個性として捉えられる豊かなこころを培います。

●認知症施策

認知症について正しく理解し、認知症の方やその家族をサポートできるような資質を保持し、自分のできる範囲で活動することを目的とした「認知症サポーター養成講座」の開催や、認知症の人やその家族、地域住民、専門職など、だれもが集える場として「認知症カフェ」が開催されています。



認知症の人を支援する「目印」として、ブレスレット(オレンジリング)を認知症サポーター養成講座受講修了者にお渡ししています。

また、地域での「見守り」をさらに広げ、認知症の方やその家族が、住み慣れた地域でできるだけ長く、安心して暮らし続けることができるよう、「認知症見守り声かけ模擬訓練」を地域包括支援センターを中心に実施しています。こうした活動により、顔の見えるつながりを生み出し、だれもが暮らしやすい地域づくりを推進します。

